



# Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の設定

---

この章では、さまざまな Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サービスおよびツールを含む、Cisco Unified MeetingPlace Web サーバの設定方法について説明します。

次の項を参照してください。

- [プロキシサーバについて \(P. 2-2\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service について \(P. 2-2\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace Gateway Systems Integrity Manager について \(P. 2-4\)](#)
- [オンライン管理インターフェイスについて \(P. 2-12\)](#)
- [制限された会議 ID パターンについて \(P. 2-16\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing テンプレートについて \(P. 2-17\)](#)
- [ユーザインターフェイスをカスタマイズするための Cascading Style Sheets の使用方法について \(P. 2-23\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace プロファイルおよびアクセスについて \(P. 2-24\)](#)
- [ビデオ端末プロファイルについて \(P. 2-26\)](#)
- [ゲストアクセスについて \(P. 2-27\)](#)
- [Web サーバの設定について \(P. 2-29\)](#)

## プロキシ サーバについて

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing は、市販されているほとんどのプロキシサーバをサポートします。プロキシサーバ経由で Web Conferencing にアクセスする場合は、プロキシサーバを次のように設定します。

- タイムアウト値を 120 ～ 300 秒に設定する。
- キャッシュ有効期間のポリシーを「Explicit Expiration Information Only」に設定する。

## Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service について

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service は Windows マスター サービスの 1 つで、次のサービスの起動とシャットダウンを管理および監視します。

- Cisco Unified MeetingPlace Agent Service (エージェント サービス)
- Cisco Unified MeetingPlace Audio Service (音声サービス)
- Cisco Unified MeetingPlace Connect Application Service (接続アプリケーション サービス)
- Cisco Unified MeetingPlace Connect Gateway (接続ゲートウェイ)
- Cisco Unified MeetingPlace Flash Media Administration Server (Flash Media 管理サーバ)
- Cisco Unified MeetingPlace Flash Media Server (Flash Media サーバ)
- Cisco Unified MeetingPlace Replication Service (複製サービス)
- Cisco Unified MeetingPlace Video Service (ビデオ サービス)

またマスター サービスは、これらのサービスを監視し、障害が発生した場合には回復を可能にし、MeetingPlace Web (MPWEB) データベースと MPWEB スレーブ データベースを設定します。いずれかのサービスで障害が発生すると、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing マスター サービスが自動的に再起動され、メジャー アラームが Cisco Unified MeetingPlace Audio Server に送信されます。

マスター サービスは、リブートまたはアップグレードが行われた後で自動的に開始されます。この時点で、すべての従属サービスを監視し、データベース設定とインポート ツールを実行します。データベース バージョンが最新でない場合は、ツールによってデータベース スキーマがアップデートされます。同様に、データベースに新しい文字列をインポートする必要がある場合は、ツールによって文字列がインポートされます。

次の項を参照してください。

- [すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service の停止 \(P. 2-2\)](#)
- [すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service の再起動 \(P. 2-3\)](#)

## すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service の停止

Gateway SIM のアップグレードや構成変更など、特定の手順を実行するときは、すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サービスを停止しておく必要があります。

### すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service を停止する

**ステップ 1** Windows の [Start] メニューで、[Settings] > [Control Panel] > [Administrative Tools] > [Services] を選択します。

**ステップ 2** [Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing] を右クリックして [Stop] を選択します。

- ステップ 3** (オプション) その他の Cisco Unified MeetingPlace ゲートウェイ サービス (Gateway SIM など) を停止するには、そのサービスを右クリックして **[Stop]** を選択します。
- ステップ 4** IIS Admin Service がまだ動作している場合は、このサービスを右クリックして **[Stop]** を選択します。
- ステップ 5** [Services] コントロール パネルを閉じます。
- 

## すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service の再起動

### すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service を再起動する

---

- ステップ 1** Windows の [Start] メニューで、[Settings] > [Control Panel] > [Administrative Tools] > [Services] を選択します。
- ステップ 2** [Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing] を右クリックして **[Start]** を選択します。
- ステップ 3** 他のゲートウェイ サービスを停止していた場合は、該当するサービスを右クリックし、**[Start]** を選択して再起動します。
- ステップ 4** [Services] コントロール パネルを閉じます。
-

## Cisco Unified MeetingPlace Gateway Systems Integrity Manager について

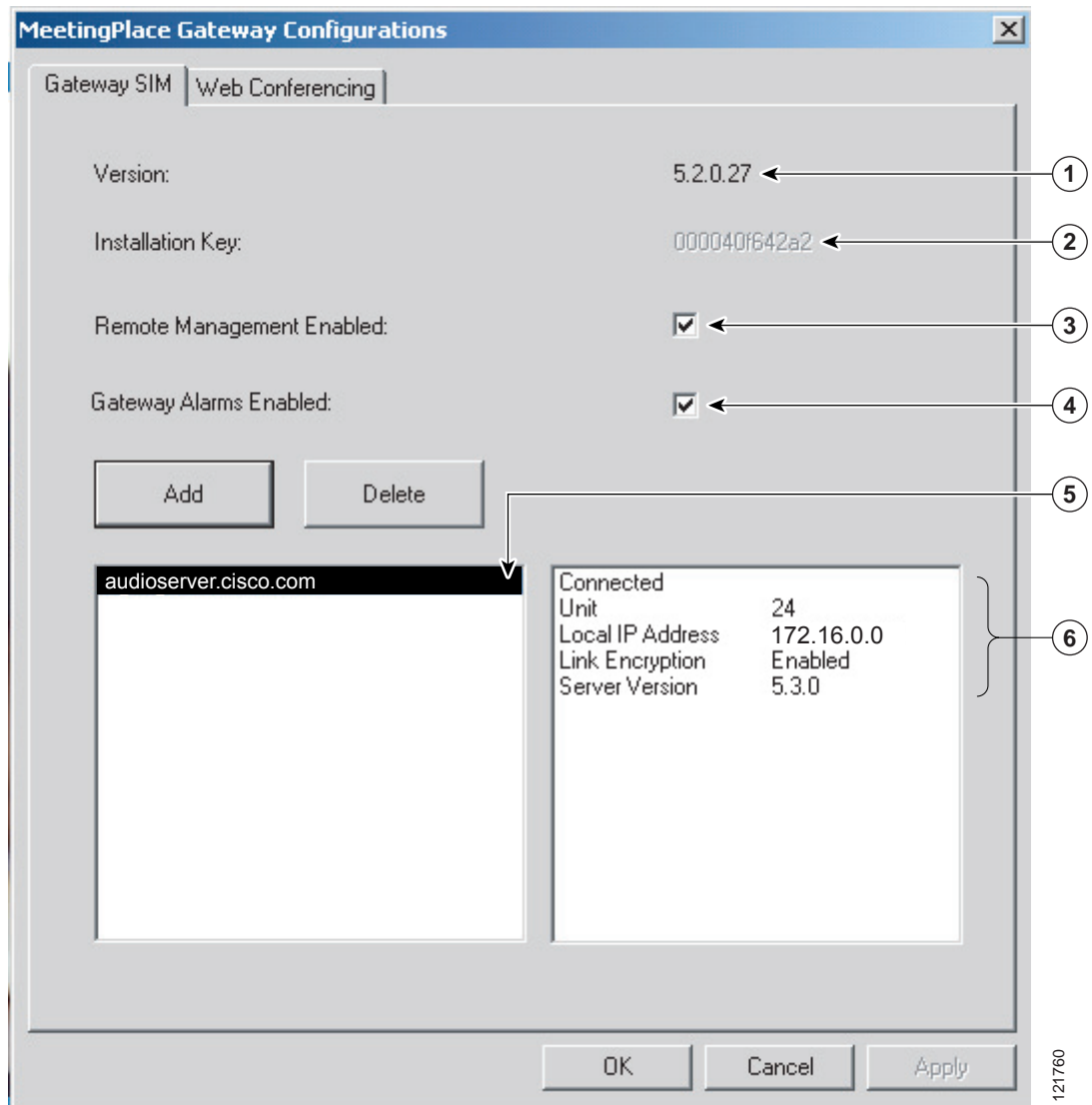
Gateway Systems Integrity Manager (Gateway SIM) は、ゲートウェイの停止を検出し、このエラーを Alarm Table にログとして記録し、シスコ サポート担当者がお客様の Cisco Unified MeetingPlace アプリケーションをリモート側から管理および診断できるようにして、すべての Cisco Unified MeetingPlace アプリケーションの信頼性とサービスビリティを向上します。


Gateway SIM は、次の一組のモジュールで構成されます。

- Gateway SIM Agent: MeetingPlace Gateway Configurations ユーティリティの Web サーバ上に常駐して、Gateway SIM Manager にスケジュールアップデートを送信します。
- Gateway SIM Manager : Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムに常駐します。Gateway SIM Manager は、アップデートを予期したとおりに受信しなかった場合に、メジャーアラームを Alarm Table に記録します。

図 2-1 に、MeetingPlace Gateway Configurations ユーティリティにある Gateway SIM Agent を示します。

図 2-1 [Gateway SIM] タブ



1	Gateway SIM のバージョン番号を示します。
2	この Windows マシンのイーサネット アドレスを示します。  (注) このマシンがそれ自体をプライマリ Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムのデータベースに登録する際に、このイーサネット アドレスを使用するため、このフィールドは重要です。
3	シスコのサポート担当者が、問題の診断や Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service の再起動を行うためのリモート管理要求を発行できるようになります。
4	Gateway SIM が、このマシンから Alarm Table にアラームを記録できるようになります。
5	このマシンの接続先の Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムの FQDN を示します。 Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムを変更するには、P.2-8 の「Cisco Unified MeetingPlace Audio Server 接続の変更」を参照してください。
6	このマシンに関する情報が含まれています。たとえば、次の情報があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>このマシンの Gateway SIM が Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムに接続されているかどうか</li> <li>プライマリ Audio Server システムによってこのマシンに割り当てられた装置番号</li> <li>このマシンの IP アドレス</li> <li>リンクの暗号化が有効かどうか</li> <li>プライマリ Audio Server システムが動作している Audio Server ソフトウェアのリリース</li> </ul>

次の項を参照してください。

- [Gateway SIM のリバース接続について \(P. 2-5\)](#)
- [MeetingPlace Gateway Configurations ユーティリティの起動 \(P. 2-6\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace Gateway SIM の設定 \(P. 2-6\)](#)
- [Gateway SIM のリバース接続に関する設定 \(P. 2-7\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace Audio Server 接続の変更 \(P. 2-8\)](#)

## Gateway SIM のリバース接続について

Gateway SIM のデフォルトの接続モードでは、Audio Server システムのポート 5003 を使用して、Web サーバ（ゲートウェイ装置とも呼ばれる）から Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムへの着信接続を開きます。

着信接続が許可されない Segmented Meeting Access (SMA) インストール システムなどのように、着信接続ができない場合は、Gateway SIM の「リバース接続」機能により、ポート 5003 への「発信」接続を使用して Audio Server システムを Gateway SIM に接続できます。

リバース接続をサポートするには、次の設定を確認してください。

- ポート 5003 への発信接続が、ファイアウォールまたはゲートウェイ装置でブロックされない。
- ゲートウェイ装置に設定されている Audio Server 名には、数値の IP アドレスでなくホスト名が使用されている。
- ゲートウェイ装置で使用される Audio Server 名と、Audio Server で使用されているホスト名が正確に一致する。



## ヒント

Audio Server ホスト名を表示するには、Audio Server システムで `net` コマンドを使用します。ゲートウェイ装置上の MeetingPlace Gateway Configurations ユーティリティに表示されるホスト名は、正確に一致する必要があります。

## 例

名前が *servername* で Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムに接続するように設定されているゲートウェイ装置は、Audio Server システムのホスト名が *servername* の場合、リバース接続をサポートします。

詳細については、P.2-7 の「Gateway SIM のリバース接続に関する設定」を参照してください。

## MeetingPlace Gateway Configurations ユーティリティの起動



## ヒント

[Cisco Unified MeetingPlace] アイコンは、オレンジ色のドアのようなアイコンで、システムトレイにあります。

### MeetingPlace Gateway Configurations ユーティリティを起動する

**ステップ 1** システムトレイで [Cisco Unified MeetingPlace] アイコンを右クリックします。

**ステップ 2** [Properties] を選択します。

## Cisco Unified MeetingPlace Gateway SIM の設定

### 始める前に

- Gateway SIM の詳細については、P.2-4 の「Cisco Unified MeetingPlace Gateway Systems Integrity Manager について」を参照してください。

### Cisco Unified MeetingPlace Gateway SIM を設定する

**ステップ 1** Gateway SIM Agent を起動します。

- MeetingPlace Gateway Configurations ユーティリティを起動します。

手順については、P.2-6 の「MeetingPlace Gateway Configurations ユーティリティを起動する」を参照してください。

- [Gateway SIM] タブをクリックします。

**ステップ 2** (オプション) シスコ サポート担当者のリモート管理を有効にするには、[Remote Management Enabled] チェックボックスをオンにします。

**ステップ 3** (オプション) この Web サーバから Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムへのアラームを記録するには、[Gateway Alarms Enabled] チェックボックスをオンにします。

**ステップ 4** (オプション) Gateway SIM の接続先の Audio Server システムを設定するには、左側のウィンドウにリスト表示される Audio Server 項目をダブルクリックして、次の操作を実行します。

- [Server Name] にプライマリ Audio Server システムを指定します。このフィールドは読み取り専用です。
- [Shadow Server Name] にバックアップ Audio Server システムを指定します。プライマリ Audio Server システムのバックアップ サーバを指定する場合は、ここにバックアップ サーバの名前を入力します。
- [Client IP Address] に、MeetingPlace Gateway の IP アドレスを指定します。このフィールドは読み取り専用です。
- [Transfer Destinations] は、Cisco Unified MeetingPlace Network Backup Gateway に固有です。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified MeetingPlace Network Backup Gateway アドミニストレータ ガイド Release 5.2 および Release 5.3』 ([http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html)) を参照してください。
- [Link Encryption Disabled] は、Cisco Unified MeetingPlace Network Backup Gateway に固有です。
- [OK] をクリックします。

**ステップ 5** [Gateway SIM] タブの [OK] をクリックします。

**ステップ 6** (オプション) [Gateway SIM] タブに表示される Audio Server システムを変更するには、P.2-8 の「Cisco Unified MeetingPlace Audio Server 接続の変更」に進みます。

## Gateway SIM のリバース接続に関する設定

### 始める前に

- この機能の詳細については、P.2-5 の「Gateway SIM のリバース接続について」を参照してください。
- ゲートウェイ装置は、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing がインストールされているマシンを指します。

### 制約事項

- この手順は、次のインストールをサポートします。
  - Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.0
  - Cisco Unified MeetingPlace Gateway SIM Release 5.3 以降の新規インストール

### Gateway SIM をリバース接続用に設定する

**ステップ 1** 次のいずれかの方法でゲートウェイ装置の IP アドレスを取得します。

#### Gateway SIM がすでに設定されている場合

- a. MeetingPlace Gateway Configurations ユーティリティを起動します。手順については、P.2-6 の「MeetingPlace Gateway Configurations ユーティリティを起動する」を参照してください。
- b. [Gateway SIM] タブをクリックします。
- c. 設定するサーバの名前をダブルクリックします。[MeetingPlace Server Entry] ウィンドウが表示されます。
- d. [Client IP Address] フィールドに、ゲートウェイ装置の IP アドレスが表示されます。

または

#### Gateway SIM の新規インストールの場合

a. DOS コマンド ツールから、**ipconfig** を使用してゲートウェイ装置の IP アドレスを取得します。

**ステップ 2** Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムに Telnet で接続し、**net** コマンドを使用して Audio Server システムのホスト名を取得します。

**ステップ 3** Gateway SIM をインストールします。

**ステップ 4** プロンプトが表示されたら、プライマリ MeetingPlace サーバのホスト名とローカルクライアントの IP アドレスを入力します。

Gateway SIM は Audio Server システムへの登録を試みます。リバース接続設定では、これは失敗します。次にリバース接続を許可するように要求されます。

**ステップ 5** インストールが完了したら、MeetingPlace Gateway Configurations ユーティリティを起動して、次の項目を記録します。

- [Unit] フィールドが UNASSIGNED に設定されていること。
- Installation Key パラメータの値。これは、[ステップ 6](#) で必要になります。

**ステップ 6** Audio Server システムに再度 Telnet 接続し、**net** コマンドを使用して、このシステムにゲートウェイ装置を設定します。MeetingPlace Gateway Configurations ユーティリティの Installation Key 値を、ゲートウェイ装置の「イーサネットアドレス」として使用します。

Audio Server システムが、ゲートウェイ装置への接続を開始します。

## Cisco Unified MeetingPlace Audio Server 接続の変更

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サーバは、特定の Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムをポイントするように設定されています。この Web Conferencing サーバがポイントする Audio Server システムをアップデートするには、次の手順を実行します。

### 始める前に

- この手順では、Web サーバ マシンを「装置」と呼びます。

### Cisco Unified MeetingPlace Audio Server 接続を変更する

**ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service と Gateway SIM Service を停止します。このサーバとデータベースを共有する Web Conferencing サーバがほかにある場合は、そのサーバでもサービスを停止します。

手順については、[P.2-2](#) の「すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service を停止する」を参照してください。



(注) この手順を完了するまでサービスを再起動しないでください。



**ステップ 2** Gateway SIM Agent を開きます。

- a. MeetingPlace Gateway Configurations ユーティリティを起動します。

手順については、P.2-6 の「MeetingPlace Gateway Configurations ユーティリティを起動する」を参照してください。

- b. [Gateway SIM] タブをクリックします。

**ステップ 3** プライマリ Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムからこの装置を削除します。

- a. [Gateway SIM] タブの左下のペインで、切断する Audio Server システムの名前をクリックします。

- b. [Delete] をクリックします。

**ステップ 4** MPWEB データベースで、Audio Server ホスト名を古いサーバ名から新しいサーバ名に変更します。

- a. Enterprise Manager を起動し、\Databases フォルダに移動します。

- b. MPWEB データベースを選択し、展開します。

- c. 左ペインから [Tables] を選択します。

- d. 右ペインで [System] を右クリックして表示されるポップアップメニューで、[Open Table] > [Return All Rows] の順に選択します。

- e. HostName 列の値を希望の値に変更します。

**ステップ 5** すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing 添付サブフォルダを削除します。

- a. Windows エクスプローラで、添付フォルダの場所 (たとえば、drive:\Web\_data\MPWeb\Meetings) に移動します。

- b. すべてのサブフォルダを削除します。Meetings フォルダは削除しないでください。

**ステップ 6** この装置を新規 Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムに追加します。


- a. Gateway SIM Agent を開きます。

- b. [Add] をクリックします。

[MeetingPlace Server Entry] ウィンドウが表示されます。

- c. [MeetingPlace Server Entry] ウィンドウで、次のようにして、新しい設定情報を入力します。

パラメータ	操作
Server Name	Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムのホスト名を入力します。  (注) Audio Server システムのホスト名の代わりに IP アドレスを使用する場合は、Audio Server 上の IP アドレスを変更するたびに、Web Conferencing サーバ上の IP アドレスをアップデートする必要があります。
Shadow Server	このフィールドはそのままにします。
Client IP Address	Gateway SIM がインストールされているマシンの IP アドレスを入力します。
Transfer Destination	このフィールドはそのままにします。

パラメータ	操作
Link Encryption Disabled	<p>このチェックボックスはオフのままにします。このチェックボックスがオフの場合、Gateway SIM と Audio Server システムとの通信は暗号化されます。</p> <p>暗号化では、秘密鍵に対して 56 ビット DES アルゴリズムが使用されます。</p> <p></p> <p>(注) クリア テキストで通信する場合はこのオプションをオンにしてもかまいませんが、この方法はお勧めできません。</p>

d. [OK] をクリックし、次に [OK] を再度クリックします。

**ステップ7** Gateway SIM Service と Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service を再起動します。このサーバとデータベースを共有する Web Conferencing サーバがほかにある場合は、そのサーバでもサービスを再起動します。

手順については、P.2-3 の「すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service を再起動する」を参照してください。

**ステップ8** この装置が新規 Audio Server システムに追加されて、装置番号が割り当てられていることを確認します。

- a. Gateway SIM Agent を開きます。
- b. 新たに追加された Audio Server システムが左側のウィンドウにリストされていることを確認します。

**ステップ9** 新しい Audio Server システムのユーザおよび会議情報で Web Conferencing サーバをアップデートします。

- a. Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
- b. [ようこそ] ページで、[Admin]、[Replication Service] の順にクリックします。
- c. [Replication Service Command] には、[Update All User Profiles] を選択します。
- d. [Submit] をクリックします。
- e. [Replication Service Command] を [Update All Meetings] に変更します。
- f. [Submit] をクリックします。

## MeetingPlace Gateway Configurations ユーティリティからの SQL アカウント アクセスのアップデート

この手順では、SQL Server に設定済みのアクセス情報を使用して Cisco Unified MeetingPlace Web サーバをアップデートする方法を説明します。SQL Server 内のアクセス情報のアップデート方法については説明しません。



(注)

この手順では、最小権限 SQL アカウントの設定方法は説明しません。この詳細については、次の URL の『*Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing インストレーションアップグレードガイド Release 6.x*』を参照してください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html)

### 始める前に

この手順を開始する前に、SQL Server 上のユーザ名とパスワードを変更します。MeetingPlace Gateway Configurations ユーティリティを使用すると、以前に設定した情報で Web サーバをアップデートできます。このユーティリティは、SQL Server をアップデートしません。

### MeetingPlace Gateway Configurations ユーティリティから SQL アカウント アクセスをアップデートする

**ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service を停止します。

手順については、[P.2-2 の「すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service を停止する」](#)を参照してください。

**ステップ 2** MeetingPlace Gateway Configurations ユーティリティを起動します。

手順については、[P.2-6 の「MeetingPlace Gateway Configurations ユーティリティを起動する」](#)を参照してください。

**ステップ 3** [Web Conferencing] タブをクリックします。

**ステップ 4** [Server] に、アップデートする SQL Server のホスト名または IP アドレスを入力します。ローカルサーバの場合は、**local** と入力します。

**ステップ 5** [Username and Password] に、この SQL Server に適用するユーザ名とパスワードを入力します。

**ステップ 6** [OK] をクリックします。

**ステップ 7** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service を再起動します。

手順については、[P.2-3 の「すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service を再起動する」](#)を参照してください。

## オンライン管理インターフェイスについて

オンライン管理インターフェイスを使用すると、便利なグラフィック ユーザ インターフェイスを使用して、さまざまな設定およびメンテナンス作業を実行できます。

次の項を参照してください。

- サインイン (P. 2-12)
- 現在実行中の会議の確認 (P. 2-12)
- データベース コマンドの使用 (P. 2-13)
- ローカル Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service のバージョンの確認 (P. 2-13)
- 新規グループの追加 (P. 2-13)
- 会議カテゴリの追加 (P. 2-14)
- 会議カテゴリの削除 (P. 2-14)
- サーバのリブート (P. 2-15)
- サイト ルートの追加 (P. 2-15)
- サイト ルートの削除 (P. 2-15)

## サインイン

### 始める前に

オンライン管理ページにアクセスするには、システム管理者権限を持つ Cisco Unified MeetingPlace プロファイルが必要です。

### オンライン管理インターフェイスにサインインする

- 
- ステップ 1** システム管理者レベルのプロファイルを使用して、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
- ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin] をクリックします。
- ステップ 3** [Administration] ページで、オプションをクリックして設定を開始します。
- 

## 現在実行中の会議の確認

Web サーバ上で現在実行中の会議を確認するには、[Web Conferences] リンクを使用します。これは、デバッグ ツールとして役立ちます。

### 現在実行中の会議の確認

- 
- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
- ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[Web Conferences] の順にクリックします。

現在実行中の Web 会議の一覧が、次のプロパティとともに表示されます。

- Conference Name : 会議の件名とダイヤル可能な会議 ID から構成されるテキスト識別子。

- Current User Count : 会議に現在参加している Web 参加者の総数 (会議にダイヤルインしていても、関連付けられた Web セッションを持っていないユーザは、ここではカウントされません)。
- Peak User Count : 会議開始後の任意の時点で同時に会議に参加している Web 参加者の最大数 (会議にダイヤルインしていても、関連付けられた Web セッションを持っていないユーザは、ここではカウントされません)。
- Active Server : 会議をホストしている開始元サーバ。
- Duration : 会議開始後の経過時間。

**ステップ 3** (オプション) メインの [Administration] ページに戻るには、[Back] をクリックします。

---

## データベース コマンドの使用

データベース管理ページを使用すると、SQL Server データベース上の情報にアクセスできます。

### データベース コマンドを使用する

---

**ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。

**ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[Database] の順にクリックします。

**ステップ 3** データベース コマンドについて、データベース テーブル内のすべてのエントリをカウントするか、データベースのすべてのインデックスを再構築するかを選択します。

**ステップ 4** [Submit] をクリックします。

---

## ローカル Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service のバージョンの確認

[Versions] オプションを使用すると、ほとんどのローカル Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service のリリース番号を確認できます。リストされているすべてのローカル Web サービスのリリースは一致している、つまり 6.0.x.x である必要があります (Gateway SIM を除く)。x.x はすべてのサービスで同じです。

## 新規グループの追加

グループには、共通システム設定 (サービス クラス、領域など) およびその他の共通ビジネス特性 (部門、管理レベル、課金コードなど) のような、共有の属性を持つユーザを定義します。ユーザをグループに配置すると、類似ユーザのプロファイルを容易に保守できます。グループに関するいずれかの項目 (部門の連絡先など) を変更する場合、グループ内のすべてのユーザを一度にアップデートできます。ユーザを割り当てることができるのは、1 つのグループだけです。

### 新規グループを追加する

---

**ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。

**ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[Groups] の順にクリックします。

## ■ オンライン管理インターフェイスについて

- ステップ 3 [Name] に、このグループの名前を入力します。
  - ステップ 4 [Number] に、このグループの番号を割り当てます。
  - ステップ 5 [Billing Code] に、このグループによる会議を課金するグループまたは部門のコードを入力します。
  - ステップ 6 [Add] をクリックします。
- 

## 会議カテゴリの追加

会議カテゴリは、レポートの編成に役立つことがあります。

### 会議カテゴリを追加する

- ステップ 1 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
  - ステップ 2 [ようこそ] ページで、[Admin]、[Meeting Categories] の順にクリックします。
  - ステップ 3 [Name] に、この会議カテゴリの名前を入力します。
  - ステップ 4 [Description] に、ユーザがこの会議カテゴリの目的を理解するために役立つ簡単な説明を入力します。
  - ステップ 5 [Add] をクリックします。
- 

## 会議カテゴリの削除

### 会議カテゴリを削除する

- ステップ 1 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
  - ステップ 2 [ようこそ] ページで、[Admin]、[Meeting Categories] の順にクリックします。
  - ステップ 3 このページの [View] から、削除する会議カテゴリを見つけて、[Delete] をクリックします。
-

## サーバのリブート

Web インターフェイスから Web Conferencing サーバ マシンをシャットダウンし、再起動するには、次の手順を使用します。

### サーバをリブートする

- 
- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
  - ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[Reboot Server] の順にクリックします。
  - ステップ 3** [OK] をクリックして、リブートを確定します。システムがシャットダウンしてから再起動します。
- 

## サイト ルートの追加

[Site Routes] オプションを使用すると、マルチサーバ会議のサーバダイヤル計画を設定できます。

### 始める前に

[Site Routes] 管理ページでサイトを選択するには、事前にサイトが設定されて送信されている必要があります。

### サイト ルートを追加する

- 
- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
  - ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[Site Routes] の順にクリックします。
  - ステップ 3** [Site Routes] 管理ページの [Add] セクションで、サイトの [From] と [To] を選択してサイト ルートを設定します。
  - ステップ 4** [Add] をクリックします。
- 

## サイト ルートの削除

### サイト ルートを削除する

- 
- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
  - ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[Site Routes] の順にクリックします。
  - ステップ 3** [Site Routes] 管理ページの [View] セクションで、削除するサイト ルートを見つけて [Delete] をクリックします。
-

## 制限された会議 ID パターンについて

システム管理者の場合には、安全でないと見なした特定の会議 ID パターンを Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing が受け入れないように制限できます。たとえば 111 や 222 などのように、同じ数字を 3 回続けて繰り返す会議パターン ID を制限できます。

制限する会議 ID パターンを判別する場合には、次の点に注意してください。

- 制限された会議 ID パターンは、数値 ID および一般会議 ID の両方に影響します。したがって、同じ数字を 3 回繰り返すパターンを制限することを選択すると、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing は数値の会議 ID 「333」および一般会議 ID 「deepdive」（「deepdive」は 3337383 に変換されるため）を許可しません。
- 最小会議 ID の長さ要件に注意してください。最小会議 ID の長さが 4 桁の場合に同じ数字を 3 回繰り返すと、セキュリティ上のリスクがあると見なされます。しかし、最小会議 ID 長が 8 桁の場合は、同じ数字を 3 回繰り返してもセキュリティ上のリスクがないと見なされます。
- 会議 ID が規則パターンに抵触して問題を発生させる可能性は、常にあります。このような問題を少なくするためには、規則を慎重に考慮して使用することが重要です。



(注)

電話または MeetingTime を使用してサポートされる会議 ID パターンの会議をスケジュールし、その後 Web Conferencing を使用してスケジュールを変更することや、再スケジュールすることはできません。このスケジュール操作はサポートされません。

次の手順を参照してください。

- [制限された会議 ID パターンを追加する \(P. 2-16\)](#)
- [制限された会議 ID パターンを削除する \(P. 2-17\)](#)

### 制限された会議 ID パターンを追加する

**ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。

**ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[Restricted Meeting ID Patterns] の順にクリックします。

**ステップ 3** [Pattern] に、Perl 構文を使用して、制限された会議 ID パターンを正規表現として入力します。

例

```
.*(012|123|234|345|456|567|678|789|890|098|987|876|765|654|543|432|321|210).*
```

**ステップ 4** [Description] に、パターンの意図の簡単な説明を入力します。

例

```
Block sequences of 3 increasing or decreasing numbers.
```

**ステップ 5** [Add] をクリックします。

パターンがページの [View] セクションに表示されます。

**ステップ 6** 追加する制限された ID パターンごとに、[ステップ 3](#) から [ステップ 5](#) を繰り返します。



### 制限された会議 ID パターンを削除する

- 
- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
- ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[Restricted Meeting ID Patterns] の順にクリックします。
- ステップ 3** ページの [View] セクションから、削除するパターンを見つけます。
- ステップ 4** [Delete] をクリックします。
- 

## Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing テンプレートについて

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing ユーザ インターフェイスは、ユーザがさまざまな Cisco Unified MeetingPlace 機能を実行できる一連のテンプレート ページで構成されています。システム管理者は、どのフィールドをユーザに表示するかを設定できます。この情報は MPWEB データベースに保存されているため、Web Conferencing をアップグレードしても情報が失われることはありません。

また、有効期限切れまたは無効なセッション ID を持つプロファイル ユーザに表示される [Session Expired] ページのテンプレートを作成することもできます。

次の手順を参照してください。

- [ユーザ インターフェイス フィールドを設定する \(P. 2-17\)](#)
- [カスタム ユーザ インターフェイス フィールドをエクスポートする \(P. 2-18\)](#)
- [カスタム ユーザ インターフェイス フィールドの設定をリロードする \(P. 2-18\)](#)
- [ユーザ フィールドのデフォルト設定を復元する \(P. 2-19\)](#)
- [ユーザ インターフェイス文字列を検索する \(P. 2-19\)](#)
- [ユーザ インターフェイス テキストを設定する \(P. 2-19\)](#)
- [エラー メッセージを設定する \(P. 2-20\)](#)
- [カスタム ユーザ インターフェイス文字列をエクスポートする \(P. 2-21\)](#)
- [カスタム ユーザ インターフェイス テキスト設定をリロードする \(P. 2-21\)](#)
- [ユーザ テキストのデフォルト設定を復元する \(P. 2-21\)](#)
- [ユーザ インターフェイス文字列を非表示にする \(P. 2-22\)](#)
- [Session Expired ページをカスタマイズする \(P. 2-22\)](#)

### ユーザ インターフェイス フィールドを設定する

- 
- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
- ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[User Interface Fields] の順にクリックします。
- ステップ 3** ページの「General」セクションで、設定する Web Conferencing ページの名前をクリックします。

そのページのユーザ インターフェイス フィールドが表示されます。

- ステップ 4** Web Conferencing ユーザ インターフェイスにフィールドを表示するには、[Enabled] カラム内のオブジェクトをクリックしてチェックマークを表示します。
- ステップ 5** フィールドを非表示にするには、[Enabled] カラム内のオブジェクトをクリックして X マークを表示します。
- フィールドを非表示にすると、Web ユーザ インターフェイスからそのフィールドが削除され、その機能にアクセスできなくなります。
- ステップ 6** 別のページを設定するには、[Back] をクリックしてメインの [User Interface Fields] 管理ページに戻ります。
- ステップ 7** (オプション) 表示フィールドの横に示される名前や説明を変更するには、[P.2-19 の「ユーザ インターフェイス テキストを設定する」](#)の説明に従って関連する文字列を設定します。

### カスタム ユーザ インターフェイス フィールドをエクスポートする

[Exporting Custom User Interface Fields] リンクを使用すると、ブラウザで行なった設定変更の XML コピーを保存できます。これは、設定をリロードする必要がある場合に役立ちます。

- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
- ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[User Interface Fields] の順にクリックします。
- ステップ 3** ページの [Actions] セクションの、[Export Custom User Interface Fields] をクリックします。
- ステップ 4** 生成された XML ファイルを、ブラウザの [Save As] オプションを使用してハードディスクに保存します。

### カスタム ユーザ インターフェイス フィールドの設定をリロードする

この手順は、前述の「[カスタム ユーザ インターフェイス フィールドをエクスポートする](#)」の手順を実行して、カスタム ユーザ インターフェイス フィールドの設定をすでにエクスポートしていることを前提としています。

- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service を停止します。
- 手順については、[P.2-2 の「すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service を停止する」](#)を参照してください。
- ステップ 2** ハードディスクから、設定変更の XML コピーを見つけます。
- ステップ 3** XML ファイルを C:\Program Files\Cisco Systems\MPWeb\DataSvc にコピーします。
- ステップ 4** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service を再起動します。
- 手順については、[P.2-3 の「すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service を再起動する」](#)を参照してください。

### ユーザ フィールドのデフォルト設定を復元する

**注意**

次の手順を実行すると、User Interface String Configuration ツールを使用して行った設定がすべて削除されます。

- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
- ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[User Interface Fields] の順にクリックします。
- ステップ 3** ページの「Actions」セクションの、[Revert to Default] をクリックします。  
操作を確認するポップアップ ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** 確認ウィンドウで、[OK] をクリックします。

### ユーザ インターフェイス文字列を検索する

- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
- ステップ 2** 変更する UI 要素を含むページを参照します。
- ステップ 3** その UI 要素の横を右クリックして、[View Source] を選択します。UI 要素のソース コードがメモ帳に表示されます。
- ステップ 4** Ctrl キーを押したまま F キーを押します。[検索] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 検索条件を入力して、[Find Next] をクリックします。
- ステップ 6** 変更する要素が見つかったら、前後を読んで関連する文字列 ID (*String1234* など) を見つけます。
- ステップ 7** この文字列の変更方法については、P.2-19 の「ユーザ インターフェイス テキストを設定する」を参照してください。

### ユーザ インターフェイス テキストを設定する

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing ページに表示するフィールドを設定すると、表示フィールドの横の名前または説明の変更を選択できるようになります。これを行うには、MPWEB データベース内の関連する文字列を設定する必要があります。この設定はデータベース内に保存されているため、Web Conferencing をアップグレードしても設定が失われることはありません。このツールを使用すると、MPWEB データベースに入力する新しい文字列を作成することもできます。

**ヒント**

文字列の検索方法の詳細については、P.2-19 の「ユーザ インターフェイス文字列を検索する」を参照してください。

- 
- ステップ 1 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
  - ステップ 2 [ようこそ] ページで、[Admin]、[User Interface Text] の順にクリックします。
  - ステップ 3 [Configure Strings] をクリックします。
  - ステップ 4 [Please Enter a String ID] フィールドに、変更する文字列の ID 番号 (1234 など) を入力するか、または新規文字列の ID を入力して新規文字列を作成します。
  - ステップ 5 [Please Select a Language] フィールドで、文字列の言語を選択します。
  - ステップ 6 [Submit] をクリックします。この文字列に関するデフォルトおよびカスタム情報が表示されます。
  - ステップ 7 [New String] フィールドに、この文字列に関連付ける新しいテキストを入力します。
  - ステップ 8 [Change] をクリックします。
  - ステップ 9 [Done] をクリックします。デフォルト テキストに戻す場合は、[Restore Default] をクリックします。
  - ステップ 10 (オプション) 別の文字列を変更するには、[Look Up a Different String] をクリックして、[ステップ 4](#) から [ステップ 9](#) を繰り返します。
- 

#### エラー メッセージを設定する

- 
- ステップ 1 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
  - ステップ 2 [ようこそ] ページで、[Admin]、[User Interface Text] の順にクリックします。
  - ステップ 3 [Configure Strings] をクリックします。
  - ステップ 4 [Please Enter a String ID] フィールドに、カスタマイズするエラー番号に 100 万を加えた値を入力します。たとえば、エラー 5432 をカスタマイズする場合は、1005432 と入力します。
  - ステップ 5 [Please Select a Language] フィールドで、カスタマイズするエラー メッセージの言語を選択します。
  - ステップ 6 [Submit] をクリックします。この文字列に関するデフォルトおよびカスタム情報が表示されます。
  - ステップ 7 [New String] フィールドに、このエラー番号に関連付ける新しいテキストを入力します。
  - ステップ 8 [Change] をクリックします。
  - ステップ 9 [Done] をクリックします。デフォルト テキストに戻す場合は、[Restore Default] をクリックします。
  - ステップ 10 (オプション) 別のエラー メッセージを変更するには、[Look Up a Different String] をクリックして、[ステップ 4](#) から [ステップ 9](#) を繰り返します。
-

### カスタム ユーザ インターフェイス文字列をエクスポートする

[Exporting Custom User Interface Strings] リンクを使用すると、ブラウザで行なった設定変更の XML コピーを保存できます。これは、設定をリロードする必要がある場合に役立ちます。

- 
- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
  - ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[User Interface Text] の順にクリックします。
  - ステップ 3** [Export Custom User Interface Strings] をクリックします。
  - ステップ 4** 生成された XML ファイルを、ブラウザの [Save As] オプションを使用してハードディスクに保存します。
- 

### カスタム ユーザ インターフェイス テキスト設定をリロードする

この手順は、前述の「カスタム ユーザ インターフェイス文字列をエクスポートする」の作業を実行して、カスタム ユーザ インターフェイス文字列の設定をすでにエクスポートしていることを前提としています。

- 
- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service を停止します。  
手順については、[P.2-2 の「すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service を停止する」](#)を参照してください。
  - ステップ 2** ハードディスクから、設定変更の XML コピーを見つけます。
  - ステップ 3** この XML ファイルを C:\Program Files\Cisco Systems\MPWeb\DataSvc にコピーします。
  - ステップ 4** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service を再起動します。  
手順については、[P.2-3 の「すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service を再起動する」](#)を参照してください。
- 

### ユーザ テキストのデフォルト設定を復元する



**注意** 次の手順を実行すると、User Interface Text 設定ツールを使用して行ったテキストの設定がすべて削除されます。

---

- 
- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
  - ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[User Interface Text] の順にクリックします。
  - ステップ 3** [Revert to Default] をクリックします。操作を確認するポップアップ ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 4** 確認ウィンドウで、[OK] をクリックします。
-

### ユーザ インターフェイス文字列を非表示にする

一部の文字列は、User Interface Field 設定ツールでは非表示にできません。このようなユーザ インターフェイス文字列を非表示にするには、次の手順を実行します。

まず、変更する文字列の ID を特定する必要があります。手順については、P.2-19 の「ユーザ インターフェイス文字列を検索する」を参照してください。



#### 注意

P.2-21 の「ユーザ テキストのデフォルト設定を復元する」を使用して、この手順で非表示にした文字列を再度表示することはできません。このような場合は、この手順で入力したテキストを削除する必要があります。

**ステップ 1** custom.css という名前のファイルを作成します。

**ステップ 2** 次のいずれかの方法で、custom.css ファイルを言語に適用します。

- ファイルをアメリカ英語に適用するには、ファイルを *drive:\Cisco Systems\MPWeb\HTML* に保存します。
- ファイルを別の言語に適用するには、ファイルを *drive:\Program Files\Cisco Systems\MPWeb\HTML\xxx* に保存します。ここで、xxx は次のいずれかの言語 ID です。
  - 英語 \000
  - フランス語 \004
  - ドイツ語 \005
  - 日本語 \006
  - ポルトガル語 (ブラジル) \015
  - スペイン語 (ラテンアメリカ) \014

**ステップ 3** 文字列をオフにするには、ファイルに次の情報を入力します。

```
.string-number
{
    display:none
}
```

**ステップ 4** custom.css ファイルを保存します。

### Session Expired ページをカスタマイズする

次の手順を使用すると、有効期限切れまたは無効なセッション ID を持つプロファイル ユーザを [Session Expired] ページに送信できます。たとえば、このページにエラーを表示して、ユーザを特定のサイトにリダイレクトできます。

**ステップ 1** SessionExpired.tpl という名前のテンプレートを作成します。

**ステップ 2** このテンプレートを program files\mpweb\template フォルダに保存します。

## ユーザ インターフェイスをカスタマイズするための Cascading Style Sheets の使用方法について

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing では、Web ベースのユーザ インターフェイスの外観を指定するときに Cascading Style Sheets (CSS) が適用されます。この CSS ファイルは、すべての Web ページ (ホーム ページ、会議のスケジューリング ページ、[Admin] ページ、アカウントの設定 ページなど) に影響しますが、会議コンソールには影響しません。

1 つの Web ページが複数の CSS ファイルにリンクする場合、これらのファイルで定義されたスタイルは、カスケード方式でそのページに影響します。つまり、一連のスタイルの中で、より新しく適用されるものが以前の上書きします。Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Web ページは、最初に、最大 2 つの定義済み mpweb.css ファイル (1 つは基本ページ用で、もう 1 つはページの言語がアメリカ英語でない場合の特定言語用) にリンクし、次に、顧客による定義が可能な 2 つの custom.css ファイル (同様に 1 つは基本ページ用で、もう 1 つは他の言語用) にリンクします。

custom.css ファイルを作成すると、特定のスタイルを定義できます (たとえば、ページの背景色を変更できます)。このファイルはインストール時に作成されないため、アップグレード時は保持されます。HTML スタイル シートについて理解している場合を除き、スタイル シート ファイルは変更しないことをお勧めします。



### 注意

インストールされている mpweb.css ファイルは変更しないでください。このファイルの変更はサポート対象外です。また、変更したファイルはアップグレード時に保持されません。

### Cascading Style Sheets を使用してユーザ インターフェイスをカスタマイズする

**ステップ 1** custom.css という名前のファイルを作成します。

**ステップ 2** 次のいずれかの方法で、custom.css ファイルを言語に適用します。

- ファイルをアメリカ英語に適用するには、ファイルを drive:\Cisco Systems\MPWeb\HTML に保存します。
- ファイルを別の言語に適用するには、ファイルを drive:\Program Files\Cisco Systems\MPWeb\HTML\xxx に保存します。ここで、xxx は次のいずれかの言語 ID です。
  - 英語 \000
  - フランス語 \004
  - ドイツ語 \005
  - 日本語 \006
  - ポルトガル語 (ブラジル) \015
  - スペイン語 (ラテンアメリカ) \014

**ステップ 3** 目的のスタイルを custom.css ファイルに適用します。

**ステップ 4** custom.css ファイルを保存します。

## Cisco Unified MeetingPlace プロファイルおよびアクセスについて

企業の他の内部リソースと同様に、多くの Cisco Unified MeetingPlace 機能では、ユーザがユーザプロフィールによって身分を証明することが要求されます。ユーザプロフィールは、次の情報で構成されています。

情報の種類	例
セキュリティ	ユーザ ID とパスワード
個人	名前、時間帯、および課金コード
アクセス	スケジュール、アウトダイヤル、記録、およびビデオのスケジュールに関するアクセス権
連絡先	電話、電子メール、およびポケットベル。ビデオをスケジュールする権限を持つユーザの場合は、ビデオ アドレスおよびビデオのデフォルト帯域幅
デフォルトの会議のプリファレンス	アナウンスされるエントリ、ロール コール、および自動通知

Cisco Unified MeetingPlace のプロフィールを持つユーザは、最大数の Cisco Unified MeetingPlace 機能にアクセスするために、常に Web 経由でサインインする必要があります。次に、機能の例を示します。

- 会議をスケジュール、再スケジュール、またはキャンセルする。
- 予約不要の会議を開始する。
- ゲスト、他のプロフィール ユーザ、またはチームを会議に招待する。
- ドキュメントを会議に添付する。
- 添付をダウンロードする、記録にアクセスする、招待されている会議のリストを参照する。
- ユーザプロフィールの設定をアップデートする。
- 会議をロックして、参加者が発言を許可されるかどうかを変更する。
- 会議参加者のコメントや提案を調査する。

Cisco Unified MeetingPlace に頻繁にアクセスするユーザは、これらの機能にアクセスするためにプロフィールを持つことを強くお勧めします。

### ユーザ プロファイルを新規に追加する

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing を使用すると、新規のエンド ユーザ プロファイルを Cisco Unified MeetingPlace データベースに追加できます。ただし、ユーザプロフィールを詳細にカスタマイズするには、MeetingTime を使用してプロフィールにアクセスする必要があります。

**ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。

**ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[Profiles] の順にクリックします。

**ステップ 3** 次の表の説明に従ってパラメータを指定します。



フィールド	操作
User ID	<p>ユーザがワークステーションから Cisco Unified MeetingPlace にアクセスするときに、ユーザを識別する 3 ～ 17 文字の一意の英数字を入力します。</p> <p><b>推奨：</b> ネットワーク名または電子メール ユーザ名。</p>
User ID Password	<p>ユーザがワークステーションから Cisco Unified MeetingPlace にアクセスするときに、ユーザを認証する 3 ～ 11 文字の英数字のパスワードを入力します。</p> <p></p> <p><b>(注)</b> これは一時パスワードです。ユーザが最初にログインしたときに、このパスワードを変更するように求められます。</p>
Confirm Password	ユーザ ID のパスワードを再入力します。
Profile Number	<p>ユーザが電話インターフェイス経由で Cisco Unified MeetingPlace にアクセスするときに、ユーザを識別する 3 ～ 17 桁の一意の数字文字列を入力します。</p> <p>ユーザ ID とプロファイル番号に同じ値を設定しないでください。</p> <p><b>推奨：</b> ユーザの電話番号、内線番号、または音声メールボックス。</p>
Profile Password	<p>ユーザが電話機から Cisco Unified MeetingPlace にアクセスするときに、ユーザを認証する 3 ～ 11 文字の英数字のパスワードを入力します。</p> <p></p> <p><b>(注)</b> これは一時パスワードです。ユーザが最初にログインしたときに、このパスワードを変更するように求められます。</p>
Confirm Password	プロファイルのパスワードを再入力します。
First Name	(オプション) ユーザの名を入力します。
Last Name	(オプション) ユーザの姓を入力します。
E-Mail Address	<p>(オプション) ユーザのプライマリ電子メールアドレスを入力します。Cisco Unified MeetingPlace は、会議通知をこの電子メール アドレスに送ります。</p>
Phone Number	(オプション) ユーザの電話番号を入力します。
Time Zone	(オプション) ユーザのローカル時間帯を選択します。このユーザ プロファイルがグループに含まれている場合は、 <b>[Group Default (localtime)]</b> をクリックします。

**ステップ 4** [Add] をクリックします。

## ビデオ端末プロフィールについて

ビデオ端末は、Cisco Unified MeetingPlace ユーザ プロファイルを持つビデオ エンドポイントです。たとえば、会議室ビデオ システムのビデオ端末プロフィールをセットアップすることがあります。Web Conferencing スケジューリング インターフェイスを使用してビデオを使用する会議をスケジューリングする場合、ビデオのスケジューリング機能を許可されたユーザは、会議の実施日のさまざまなビデオ端末の可用性を表示でき、1 つまたは複数のビデオ端末を会議用に予約できます。会議通知には、招待されている端末と、各端末のダイヤルイン番号がリスト表示されます。

ビデオ端末のプロファイルは、次の方法でユーザ用にセットアップしたプロファイルにより異なります。

- ビデオ端末は Cisco Unified MeetingPlace Video Administration に設定され、その後 Replication Service を使用して Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing に同期化されます。
- ビデオ端末プロフィールの値は、ビデオ端末名、ID、分類など、追加ビデオ端末パラメータ用に設定されています。このパラメータを変更するには、Video Administration を使用する必要があります。MeetingTime を使用してこのフィールドを変更することはできません。
- ビデオ端末を会議に招待するプロセスは、ユーザを招待するプロセスとは異なります。特定の会議用にビデオ端末を予約します。このプロセスにより、ユーザが端末の可用性を確認すると、その期間は端末が使用中と表示されます。ビデオ端末を予約すると、端末オーナーに会議の招待状が自動的に送信されます（オーナーが指定された場合）。会議招待者リストは、ユーザを追加するもので、ビデオ端末は追加しません。

ビデオ管理でビデオ端末を作成するための詳細については、次の URL の『Cisco Unified MeetingPlace Video Integration アドミニストレーションガイド Release 5.4』を参照してください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_maintenance\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_maintenance_guides_list.html)

## ビデオ端末ユーザ プロファイルのインポート

ビデオ端末は、Replication Service によって Cisco Unified MeetingPlace Video Administration から自動的に同期化されます。この自動同期化の実行頻度を設定するには、次の手順を実行します。

### ビデオ端末同期周期を設定する

- 
- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
  - ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[Site] の順にクリックします。
  - ステップ 3** [View] セクションで、設定するサイトの名前をクリックします。
  - ステップ 4** [Video Terminals/Meeting Types Refresh Period] フィールドに値（日数）を入力します。
  - ステップ 5** [Submit] をクリックします。
- 

次の手順を使用すると、ビデオ端末のリストをただちに強制的に更新することもできます。

### ビデオ端末ユーザ プロファイルを手動でリフレッシュする

- 
- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。

**ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[Replication Service] の順にクリックします。

**ステップ 3** [Replication Service Command] には、[Update All Terminals] を選択します。

**ステップ 4** [Submit] をクリックします。

## ゲスト アクセスについて

Cisco Unified MeetingPlace では、ゲスト ユーザ（プロファイルを持たないユーザ）が、会議に参加し、会議の資料（記録や添付など）にアクセスできます。会議のスケジュール担当者は、ゲスト アクセスに設定する必要があるパラメータの一部を設定できます。他のすべてのパラメータは、システム管理者が設定する必要があります。

次の手順を参照してください。

- [ゲスト アクセスを許可するように Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing を設定する \(P. 2-27\)](#)
- [公開された会議をゲストが検索できるようにする \(P. 2-27\)](#)

### ゲスト アクセスを許可するように Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing を設定する

会議のスケジュール担当者は、次のパラメータを設定できます。

**ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。

**ステップ 2** [ようこそ] ページで、[会議スケジュールの作成] をクリックします。[新しい会議] ページが表示されます。

**ステップ 3** [新しい会議] ページで [その他のオプション] をクリックし、次のパラメータを設定します。

パラメータ	設定
参加者の資格	全員
MeetingNotes にアクセスする	全員

これらのパラメータを使用してスケジュールされた会議は、公開された会議としてスケジュールされます。つまり、アクセスの制限がない会議としてスケジュールされます。

### 公開された会議をゲストが検索できるようにする

**ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。

**ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[Web Server] の順にクリックします。

**ステップ 3** ページの「View」セクションで、設定する Web サーバの名前をクリックします。

このサーバに関する情報が、ページの [Edit] セクションに取り込まれます。

## ■ ゲスト アクセスについて

- ステップ 4** [Allow Public Meetings in Find Meeting List] には、[Yes] を選択します。これによって、公開された会議が会議の検索結果に表示されるようになります。
- ステップ 5** [Allow Guest to Find Meeting Page] には、[Yes] を選択します。これによって、[会議の検索] ページを使用して公開された会議をゲストが検索できるようになります。
- ステップ 6** 完了したら、[Submit] をクリックします。

**ヒント**

外部ユーザ（ファイアウォールの外部のユーザ）およびサイト（ネットワーク外の Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システム）が会議およびそれに関連する会議資料にアクセスできるようにするには、必ず、その会議に対して [Allow External Web Participants] を [Yes] に設定します。

このパラメータは、会議のスケジュール担当者が [New Meeting] スケジューリング ページで設定します。このパラメータが表示されるのは、Cisco Unified MeetingPlace システムが外部サイト（つまり、DMZ ゾーンなどのネットワークのインターネット アクセス可能なセグメントに配置されている Web サーバ）を持つ場合だけです。

---

## Web サーバの設定について

[Web Server] 管理ページを使用すると、ローカルの Web サーバを設定できます。この設定には、Secure Socket Layer (SSL) の有効化、Web サーバ認証、および DoS (サービス拒絶) への対処の設定が含まれます。DoS への対処を設定すると、サーバのキャパシティしきい値でのパフォーマンスが向上します。

次の項を参照してください。

- [Web サーバの設定 \(P. 2-29\)](#)
- [ローカル Web サーバ オプションのカスタマイズ \(P. 2-32\)](#)


## Web サーバの設定

ここでは、設定する Web サーバに固有のパラメータについて説明します。


### Web サーバを設定する

- 
- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
  - ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[Web Server] の順にクリックします。
  - ステップ 3** ページの下部で、設定する Web サーバの名前をクリックします。  
  
定義済みの設定がページの上部に表示されます。
  - ステップ 4** 次の表の情報を使用して、パラメータを変更します。

## ■ Web サーバの設定について

パラメータ	説明	オプションまたは特記事項
Web Server Name	この Web サーバに割り当てられている名前。	このフィールドは、Web サーバ ソフトウェアのインストール中に設定されます。
Hostname [Home Page]	<p>Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のホームページに接続するとき使用されるホスト名、FQDN、または IP アドレス。</p> <p>このフィールドに Web サーバのホスト名だけが指定されている場合は、FQDN、つまり <i>hostname.domain.com</i> の形式に変更することをお勧めします。Web サーバが Domain Name Server (DNS; ドメインネームサーバ) に登録されていない場合は、代わりに IP アドレスを挿入します。</p> <p> (注) このパラメータに、Hostname [Web Conferencing] と同じ値を設定しないでください。</p> <p> (注) SSL を使用するには、この値をデフォルトの IP アドレスからホスト名または FQDN に変更する必要があります。</p> <p> (注) IP アドレスまたは FQDN を入力すると、Windows 認証機能が適切に機能しなくなります。この問題および回避策の詳細については、<a href="#">P.4-19</a> の「<a href="#">Windows 認証の不適切な機能に関する問題のトラブルシューティング</a>」を参照してください。</p> <p> (注) このホスト名または IP アドレスを対象ユーザが解決できることを確認します。</p>	このフィールドには、Web サーバ ソフトウェアのインストール時に、オペレーティングシステムで割り当てられた最初の IP アドレスが入力されています。

パラメータ	説明	オプションまたは特記事項
Hostname [Web Conferencing]	<p>Flash クライアントを Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の会議コンソールに接続するときに使用されるホスト名、FQDN、または IP アドレス。</p> <p>このフィールドに Web サーバのホスト名だけが指定されている場合は、FQDN、つまり <i>hostname.domain.com</i> の形式に変更することをお勧めします。Web サーバが Domain Name Server (DNS; ドメインネームサーバ) に登録されていない場合は、代わりに IP アドレスを挿入します。</p> <p> <b>(注)</b> このパラメータに、Hostname [Home Page] と同じ値を設定しないでください。</p> <p> <b>(注)</b> SSL を使用するには、この値をデフォルトの IP アドレスからホスト名または FQDN に変更する必要があります。</p> <p> <b>(注)</b> このフィールドの変更を有効にするには、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サービスを再起動する必要があります。手順については、<a href="#">P.2-3</a> の「すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Service の再起動」を参照してください。</p> <p> <b>(注)</b> このホスト名または IP アドレスを対象ユーザが解決できることを確認します。</p>	このフィールドには、Web サーバソフトウェアのインストール時に、オペレーティングシステムで割り当てられた 2 番目の IP アドレスが入力されています。
Require SSL	この Web サーバに Secure Socket Layer (SSL) 接続を設定するかどうかを指定します。SSL の詳細については、 <a href="#">P.5-3</a> の「 <a href="#">Secure Sockets Layer の設定方法</a> 」を参照してください。	[Yes] または [No]
Trust Web Server Authentication	この Web サーバは、認証済み Windows ログイン情報を受け入れて Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing に自動的にログインするかどうかを指定します。	[Yes] または [No]
Include Attachments In Make New Meeting	会議のコピー機能を使用するときに、元の会議の添付を新しい会議にコピーするかどうかを指定します。  [No] を選択すると、ユーザは会議の作成時にすべての添付を添付し直す必要があります。	[Yes] または [No]
Max Concurrent Web Conference Users	このサーバで許可される Web 会議の同時ユーザ最大数を設定します。   <b>(注)</b> 不適切なハードウェアを使用したシステム上でこのパラメータを最高レベルに設定すると、ユーザのパフォーマンスが低下します。	0 ~ 500 の数字

パラメータ	説明	オプションまたは特記事項
Performance Tuning	<p>会議環境に最もよく合う設定を選択します。このオプションによって、Web 会議の可能性ある同時ユーザ数に基づいて Web サーバが最適化されます (会議のスケジュールだけを行う管理者などの、会議を使用しないユーザは対象になりません)。</p> <p> (注) 不適切なハードウェアを使用したシステム上でこのパラメータを最高レベルに設定すると、ユーザのパフォーマンスが低下します。</p>	75 ユーザ未満、150 ユーザ未満、または 150 ユーザ以上
Use Intelligent Load Algorithm	<p>[Yes] を選択すると、負荷アルゴリズムに基づいて参加者を受け入れるように Web サーバが設定されます。会議に参加しようとするユーザは、要求が処理されている間、待機するように要求されます。[No] を選択すると、Web サーバがすべての要求を同時に受け入れることがデフォルトになります。サーバがビジーかまたは [Max Concurrent Web Conference Users] 制限に達すると、サーバがビジーであることがユーザに通知され、再試行するように求められます。</p> <p>推奨: [Yes]。</p>	[Yes] または [No]
Verbose Logging	<p>詳細エントリを Gateway SIM ログに記録するかどうかを指定します。</p> <p>推奨: パフォーマンスを向上するために、[No] を選択。</p>	[Yes] または [No]

**ステップ 5** [Submit] をクリックします。

**ステップ 6** (オプション) 使用するローカル Web サーバで有効なオプションを設定する場合は、[P.2-32](#) の「[ローカル Web サーバ オプションのカスタマイズ](#)」に進みます。

## ローカル Web サーバ オプションのカスタマイズ

システム管理者は、エンドユーザ用のローカル Web サーバで使用可能にする機能をカスタマイズできます。選択したカスタマイズによって、通常は個々のサービス クラスまたは会議コンソール アクセス権によって許可される機能が上書きされます。

### Web サーバ オプションをカスタマイズする

**ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。

**ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[Web Server] の順にクリックします。

**ステップ 3** ページの「View」セクションで、設定する Web サーバの名前をクリックします。

定義済みの設定がページの [Edit] セクションに取り込まれます。


**ステップ 4** 次の表の情報を使用して、Web サーバを設定します。



- この機能を有効にするには、[Yes] を選択します。
- この機能を無効にするには、[No] を選択します。
- 設定する Web サーバ上の機能を同じサイト内の他の Web サーバと同期させるには、[Site default] を選択します。



(注) [Site administration] ページでサイト情報を設定できます。

パラメータ	説明
Allow Profile Access	[アカウント] リンクを Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のホーム ページでユーザに表示するかどうかを指定します。  [アカウント] リンクを使用すると、ユーザが自分のプロフィール情報にアクセスできます。
Allow Admission of External Participants	この Web サーバで、適切な会議コンソール アクセス権を持つユーザが、進行中の会議を内部 Web サーバから外部 Web サーバに拡大して、外部参加者が参加できるようにするかどうかを指定します。
Allow Chat In Meeting Console	会議コンソールでチャットウィンドウを使用できるようにするかどうかを設定します。
Allow Public Meetings in Find Meeting List	ユーザが [会議の検索] 検索エンジンを使用するときに、公開された会議をリストできるかどうかを指定します。  [No] を選択すると、検索エンジンには、検索者によってスケジュールされた会議または、プロフィールにより検索者が招待された会議だけが表示されます。  デフォルトは [Yes] です。
Allow Guest Access to Find Meetings Page	ゲスト ユーザ（つまり、Cisco Unified MeetingPlace プロファイルのないユーザ）が [会議の検索] ページにアクセスできるかどうかを指定します。   (注) ゲスト ユーザが会議の検索機能を使用できるようにするには、[Allow Public Meetings in Find Meeting List] と [Allow Guest Access to Find Meetings Page] の両パラメータを [Yes] に設定します。
Purge Meetings Held Before (Days)	会議情報を消去するまでに、Cisco Unified MeetingPlace Web サーバデータベースに保持する期間を指定します。  デフォルトは 60 日です。
Allow Remember Me	[ユーザ情報を保存] チェックボックスを Web Conferencing の [サインイン] ページに表示するかどうかを指定します。  [ユーザ情報を保存] を使用すると、ユーザのパスワードを Cookie として保存して、以降の Web Conferencing セッションで使用できるようになります。
Remember Me Expiration Interval (Days)	[ユーザ情報を保存] が有効に保たれる日数を指定します。0 を入力すると、[ユーザ情報を保存] は期限切れになりません。  デフォルトは 90 です。

ステップ 5 [Submit] をクリックします。

---